

第6回政策推進会議報告

日 時 6月22日 9時30分～10時15分

場 所 4-1会議室

出席者 18人

会議に先立ち、市長から6月19日の台風4号の対応に関する労いと、昨日の大雨に関する報告を求められた。

昨夜午後10時17分に大雨洪水警報が発表されたが、本日午前5時14分に警報は解除となった。その間、防災対策課の職員が待機していたが、本日8時45分現在において、消防局他から被害の報告はなかった。

(市長)これから台風の本格的なシーズンとなるので、引き続き対応をお願いする。

1 新たな改善の取組について

総務局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長)これまでの企画財政局から総務局に所管を移し、人材育成の面における処遇や評価を基本にリニューアルした。各局長にも局内の各部署をマネジメントするツールとして活用してほしい。また、これまでは各課における取組だけだったが、局を越えた有志の集まりにおいても実施できるように変更している。

・これまでの結果はどう蓄積されるのか。新たな提案だけでなく、これまでの取組で良かったものはどう反映されるのか。

これまでは、所属で行われた実績を提案してもらっていたが、今回は将来に向かって効果のある提案も想定している。出てきた提案は所属に伝達し、検討してもらいたい。

(市長)これまで比較的現場からの登録や発表は多かったが、発表会のプレゼンテーションを行わなければならないという負担感からエントリーしていない職場が多かった。新たな改善の取組では気軽さを重視しており、データベースの蓄積を行い、これから入庁を希望する学生にも参照してもらいたいと考えている。これまでの取り組みを工夫して継続していくという提案でも構わない。

・政策的調整という意味では、市民協働局が取り組んでいる提案型委託制度と似ている。このスケジュールとは合わないが、その兼ね合いはどう調整するのか。

スケジュールは調整できていないので、具体的な回答はできないが、小さな改善といった観点から対象になるものと考えており、行政管理課で取りまとめた上で、各所属に伝達したい。異なるルートで提案型事業委託制度と同様の提案が出てきた場合、改善運動の方を調整したいと考えている。次期行革計画に計上できるものや、市の財政に大きな効果を与えるものは別途表彰したいとも考えている。細部は調整中であり、どのような提案が出てくるのかも分からないので、実施していくなかで考えていきたいと考えている。

・具体的な事務手続きはどうするのか。どちらを優先していくのか。提案型事業委託制度は外部選定委員により協議してもらおう予定としており、制度間の調整が必要である。

・次期行革計画と職員表彰についての話が出たが、次期行革計画は夏頃には発表する予定である。このスケジュールでは3月に審査、表彰とのことであるが、こちらだけ表彰するのではな

く、うまく考えてもらいたい。以前実施していた職員提案制度と似ており、実施当初はいくつが提案が出るが、言いつばなしで終わってしまい、効果は少なかったと記憶している。局を越えた提案をどのように受け止めるかは困難であり、提案した側と提案された側で議論する場をつくるなど、工夫してもらいたいだろうか。

(市長) 小さなものから大きなものまで気軽にアイデアを出せる雰囲気作りをしたい。青森市が行っているファシリティマネジメントの取組は、実は職員の提案によるものであった。何年かかけて育てていく価値があるものは行政管理課がコーディネートし、単年度で終わるのではなく継続的に進めていきたい。

・一次審査を全職員で行うとあるが、どうやるのか。

職員デジタルネットを活用し、全職員にいい提案を選んでもらうものである。パソコンのない職員にも参加してもらう手法を考えている。

・昨年、都市整備局では、発表しなくても、重複していても、内容が軽くてもいいということで、ようやく全所属エントリーすることができた。気軽に参加してもらいたいと言っているが、全職員に見られるという負担感から、逆にハードルがあがるのではないか。

プレゼンテーションに関するコースを3つ設定し、エントリーも所属、個人、有志にするなど工夫している。アンケートの意見が多かったやらされている感じを解消しないといけない。ハードルが高くなったわけではないことを周知する。

・エントリー数が減っている現状はどう考えるか。

(市長) 全庁的の改革改善運動として取り組んできた良さは残したい。これまでやってきた仕事をそもそも必要なのかといった視点で見直す気風をつくる。この運動はこれまで行財政改革の観点で行ってきたが、人材育成の観点とし、人事管理部で管理してもらうことで、チャレンジすることが普通といった感覚を持った職員として育てたいと考えている。その後は、研修や人事評価制度との連携を予定しており、いろいろ意見を聞きながら実施していきたいと考えている。

・フェイスブックを活用するとのことだが、市民以外の人からも意見をもらうことになり、一次審査における提案時とは内容が異なってくるかもしれないが、あくまで当初の提案にこだわるのか。

今回の見直しには、人材育成や職員力の強化に重点を置いている。フェイスブックに掲載するのは10個程度を予定していて、本市の取組を広く知ってもらうことを目的としている。いただいた意見で当初の取組を変更することまでは考えておらず、基本的にはイネボタンで投票してもらうことだけを考えている。

(市長) 良い意見は取り入れればいので、フェイスブックに掲載してみる価値はあると思う。

市民の意見では、市役所に電話しても出る人によって話が違って、それがストレスになっているというものもある。我々はマニュアルを作成し、日々改善していることを見せていけばいいと思う。

・フェイスブックに掲載すると、いろんな意見が出てくるが、コメントを放置すると問題が起こる。意見に対するコメントは行政管理課が行うのか、それとも実施するところが行うのか。

今回、様々な意見をもらったので、企画管理課長会で再度提案するなど、今後調整する。

(市長) なかなかハードルが高いように感じるが、良いものに練り上げていってもらいたい。

2 保育所の設備及び運営に関する基準に係る「基本情報」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

こども青少年局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 従うべき基準と参酌すべき基準について、もう少し説明してはどうか。

従うべき基準については、こども一人当たりに対する職員の配置や保育室の面積、人権侵害の防止など、厚生労働省令に定めているものである。次に、参酌すべき基準については、入所者の衛生面や職員の健康状況など、本市の基準を定めるものである。

(市長) 保育所についても、市の財政状況が厳しいことから、本市独自のものを国基準に変更してきた経過がある。ただ厳しい財政状況とはいえ、社会保障審議会で意見をもらい、保育現場に伝えて、独自に行っているものもあり、これからも食育等に力を入れたい。本市としては、幼稚園や保育所の枠を越え、こどもの後伸びする力を育てたいと考えており、条例を作成する際には民間事業所からも意見をもらい、本市のこども全体を守るように取り組むことが基本となるが、本市独自の考えが盛り込めるのであれば挑戦する価値はあるので、協力をお願いします。

幼稚園と小学校の連携に関連して、幼稚園や小学校の教員にも保育所を見てもらい、意見を聞きたいと考えており、具体的に進めていく。

(市長) こども未来対策会議に部会を作るが、教育関係部局とも連携して進めてもらいたい。

3 その他

なし

以 上